

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	地域共生社会の実現にむけた介護サービスの革新				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	天野 ゆかり
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	木村 綾
	発表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	天野 ゆかり

講演題目	地域共生社会の実現にむけた介護サービスの革新と課題
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>障害や疾病などで様々な困難に直面した場合でも、誰もが尊厳を保持し、その人らしい生活を送ることができるような共生社会の構築が求められている。「地域共生社会」は、このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係等を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すものである。地域共生社会を推進する取組のひとつに、「共生型サービス」がある。これは同一事業所において、介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を提供することで、枠組みにとらわれず、多様化・複雑化している福祉ニーズに臨機応変に対応することができ、地域の実情に応じたサービス提供体制の整備や人材確保を行うことが期待されている。</p> <p>そこで本研究では、共生型サービスの展開に向けた事業所の取り組みや、障害福祉分野における現場の抱える課題を明らかにすることを目的とした。本研究では、文献調査に加え、現地調査として、2022. 11 月に開設した多世代複合施設「百年の森函館」と、社会福祉法人あけぼの福祉会を訪問し、管理者および現場担当者にヒヤリングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百年の森函館：株）3eee が運営する通所介護・居宅介護支援・児童発達支援・就労継続支援 B 型の複合施設で、未就学児童から高齢者までが同じ施設で通いのサービスを利用している。新たなサービスの展開として、高齢者のデイサービスでは、「働く」×「リハビリテーション」（ワクリハ）を取り入れ、利用者の機能訓練や社会参加（生きがいつくり）を目的とし、成果物の販売等（例：米の精米とパッキング）で得た収益は全て利用者に還元し、利用料の負担軽減も期待されている。障がい者の就労支援では、清掃や衣類畳みに加え、今後コーヒー豆を焙煎し、施設内のコミュニティカフェで提供される予定となっている。介護と障害分野の垣根を超え、多様な人々や専門職の交流、連携の促進が期待されている。 ・あけぼの福祉会：北海道岩内郡にある同法人は、S57 年に設立され、障がい者支援施設や就労継続支援 B 型、生活介護事業などを運営している。近年、利用者の重度化や高齢化に伴い介護が必要な利用者が増加している。しかし、障がい者の介護保険サービスへの移行が難しく、精神・知的障がい分野の身体介護などの対応に苦慮していた。また、人口減少に伴う職員確保の困難さなどがあり、障害福祉分野の魅力発信や人材獲得という課題も抱えている。そこで介護分野での実績のある 3eee とノウハウの共有や職員研修・交流を通して、地方の福祉事業の改革、人材獲得、障がい・介護分野の融合と発展などに取り組んでいた。 <p>地域共生社会を理想で終わらせないためにも、地域課題を共有しつつ、それぞれの組織の強みや特色を発揮できるような連携やサービス開発が求められている。今後の展開についてもさらに注目していきたい。</p>